

アクセスログ機能を強化

ネットワーク接続ハードディスク HDL-H シリーズ ログ拡張パッケージ

ご注意

- 事前に本パッケージの追加をおこなってください。本パッケージの追加は、HDL-H シリーズ ファームウェアバージョン 2.04 以降が適用されている必要があります。
パッケージの追加方法は、【画面で見るマニュアル】をご覧ください。
- 本パッケージを削除すると、ログも削除されます。本パッケージを削除する場合は、事前にログのバックアップをおこなってください。

INDEX

ログ拡張パッケージとは.....	2
ログ拡張の設定をする.....	4
アラート設定する.....	7
制限キーを追加登録する.....	10
制限キーを解除する.....	12
ログ・お知らせ一覧.....	13

[【マニュアルアンケートはこちら】](#)

よりよいマニュアル作りのため、アンケートにご協力願います。

ログ拡張パッケージとは

ログの長期保管機能

本パッケージでは、システムログ、アクセスログは指定のログ拡張フォルダーに保存し管理します。アクセスログは設定した条件にならない限り消去されません。

アクセスログ閲覧ツール「LAN DISK Access Log Viewer」のご紹介

LAN DISK Access Log Viewer は、本パッケージにより、専用フォルダーに保存された膨大なアクセスログから必要な記録を抽出することができます。詳しくは、弊社 Web サイトをご確認ください。

アクセスログのアラート機能

設定した条件のアクセスログが記録された場合、システムログにアラート対象のアクセスが発生したことをログとして記録します。

アクセスログの削除・改ざん防止機能

お手持ちの USB メモリーを制限キーとして利用できます。

制限キーは、ログ拡張フォルダーへのアクセスや、ログ拡張に関する設定変更を許可するためのカギになります。

制限キーとして設定した USB メモリーが HDL-H シリーズに接続されている場合のみ、ログ拡張フォルダーへのアクセスや、ログ拡張に関する設定変更を可能にできます。

(制限キーを利用しない運用も可能です。)

制限キーの利用について

制限キーは、管理の権限分離でご利用いただけます。

権限分離とは、制限キーをシステム管理者以外の方（経営者、監査室など）が利用することです。

これにより、万一の情報漏えい時にシステム管理者によるアクセスログの削除や改ざんを防ぐことができ、ログの証拠性を上げることができます。

制限キーを利用すると、ログ拡張フォルダーのアクセス制限や、ログ拡張パッケージの設定をそれぞれ制限することができます。

準備するもの

制限キー機能を利用する場合は、以下の USB メモリーを別途準備してください。

●対応 USB メモリー：弊社製 USB メモリー※

※ ED シリーズなど、暗号化されている USB メモリーは使用できません。

※暗号キーも利用する場合は、さらに別の USB メモリーが必要です。

制限キーに使用する USB メモリーについて

USB メモリーはキーとして使用するのみで、すでに USB メモリー内に保存されているデータに対して影響を与えません。

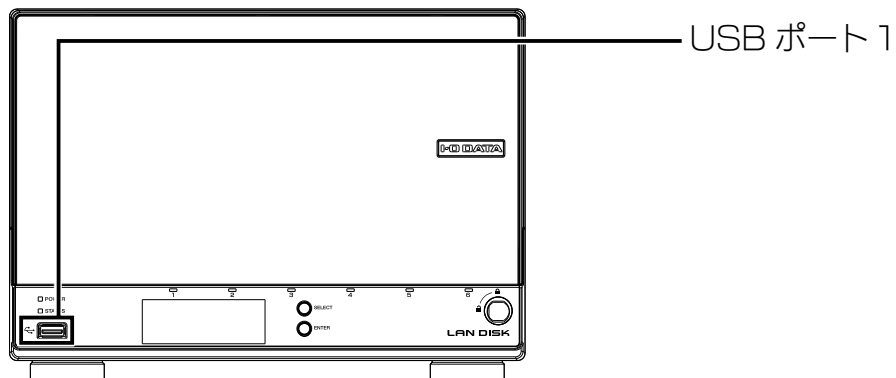
ご注意

- 万一、制限キーを紛失した場合、ログへのアクセス、設定変更、初期化・フォーマット、パッケージの削除が一切できなくなってしまうます。
制限キーを紛失することがないように十分にご注意ください。また、スペアキーとして制限キーを追加登録することをおすすめします。
- 本パッケージを追加後は、初期化・フォーマットの操作はおこなえません。（初期化・フォーマット実行時にエラー表示されます。）
本パッケージ導入後に、HDL-H シリーズを初期化・フォーマットする場合は以下の手順にしたがってください。
①ログ拡張パッケージを削除する（[システム]→[パッケージ管理]→[一覧]）
②初期化・フォーマットをおこなう
※それぞれの詳しい方法は【HDL-H シリーズ HDL-HR シリーズ画面で見るマニュアル】でご確認ください。
- 制限キーによりログ拡張に関する設定変更を制限した場合、パッケージの削除に制限キーが必要になります。（制限キーがない場合、削除できません。）
パッケージの削除をする場合は、制限キーを接続した状態でおこなうか、あらかじめ制限を無効にしておいてください。

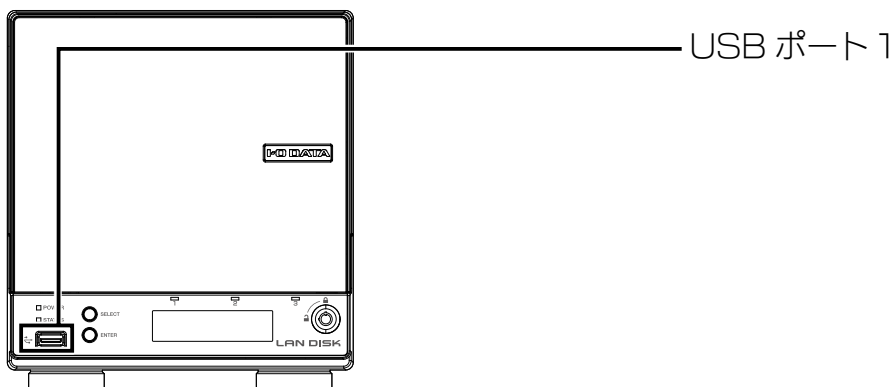
ログ拡張の設定をする

- 1 制限キーの機能を利用する場合は、
HDL-H シリーズ前面の USB ポート 1 に制限キーにする USB メモリーをつなぐ

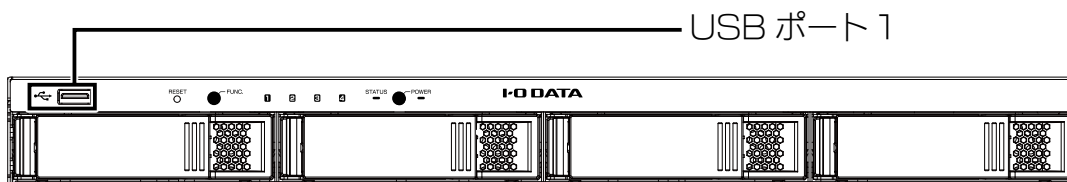
HDL6-H (HDL4-HEX) 前面



HDL2-H 前面



HDL4-HR 前面



2



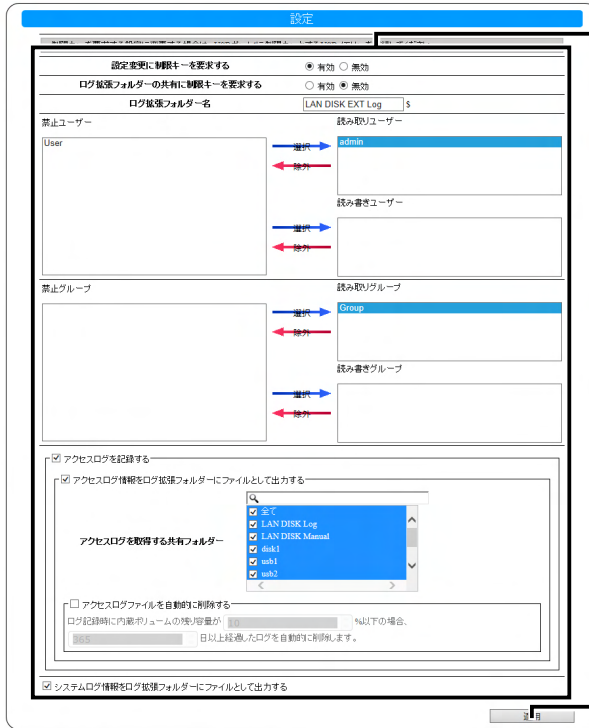
ログ拡張



設定

[ログ拡張] → [設定] をクリック

3



① 設定情報を入力

※設定内容は以下の [設定内容一覧] をご確認ください。

② [適用] をクリック

設定内容一覧

設定変更に制限キーを要求する	ログ拡張フォルダーの設定変更をおこなう際に、制限キーの接続を必要とするかどうかを設定します。
ログ拡張フォルダーの共有に制限キーを要求する	有効すると、本製品に制限キーを接続している間だけ、ログ拡張フォルダーが Windows から共有フォルダーとしてアクセスできるようになります。
ログ拡張フォルダー名	本パッケージで保存されるシステムログ、アクセスログを保存するログ拡張フォルダー名を設定します。
ユーザー・グループ	設定したログ拡張フォルダーのアクセス権を設定します。
アクセスログを記録する	アクセスログを記録するかどうかを設定します。 [アクセスログ情報をログ拡張フォルダーにファイルとして出力する] にチェックをつけると、記録されたアクセスログをファイルとして記録します。 [アクセスログを取得する共有フォルダー] では、ファイルとして記録するアクセスログの対象フォルダーを選択します。 [アクセスログファイルを自動的に削除する] では、ファイルの削除条件を設定します。
システムログ情報をログ拡張フォルダーにファイルとして出力する	チェックをつけると、記録されたシステムログをファイルとして記録します。

以上で、設定は完了です。

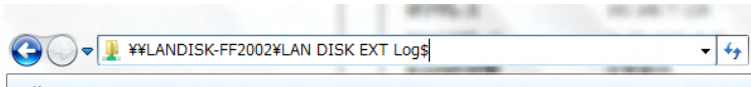
ご注意

- [設定変更に制限キーを要求する] および [ログ拡張フォルダーの共有に制限キーを要求する] の両方またはいずれかを有効に設定してから、両方無効な状態に変更した場合、登録した制限キーはすべて解除されます。
- アクセスログには設定された共有フォルダーへのすべてのアクセスが記録されます。
このため、ご利用の状況によってはログのサイズが非常に大きくなる場合がありますのでご注意ください。

ログ拡張フォルダーへのアクセス方法

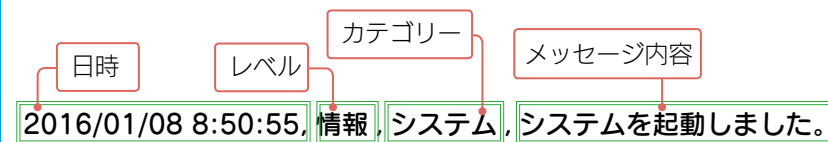
ログ拡張フォルダーは、Microsoft ネットワーク共有の隠し共有フォルダーとなります。
 (制限キーによるアクセス制限をおこなっている場合、制限キーを接続していないと共有フォルダーとしてアクセスできません。)
 ログ拡張フォルダーへアクセスする場合には、[ログ拡張フォルダー名] に指定した名前の末尾に \$ を付加した共有フォルダー名を
 エクスプローラーから直接指定してアクセスしてください。

(記入例)

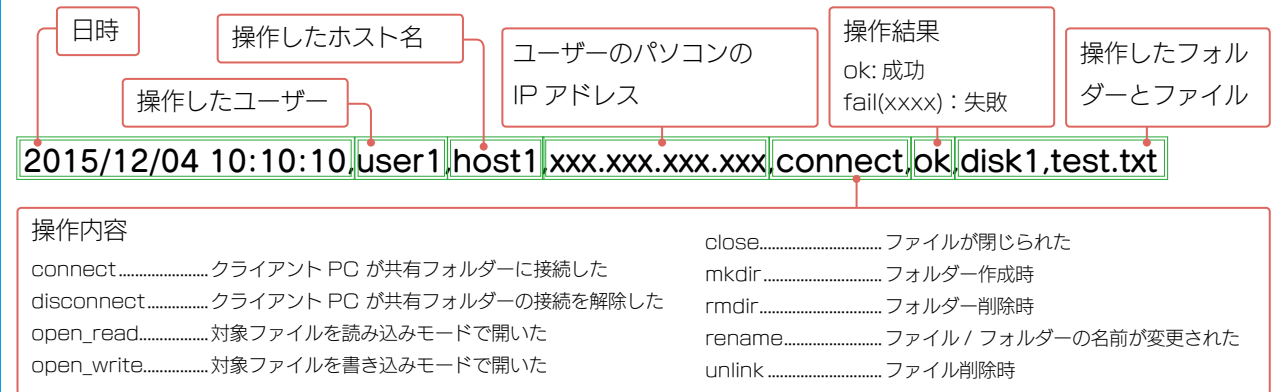


システムログ、アクセスログ、アラートログは、ログ拡張フォルダーの下のそれぞれ "systemlog"、"accesslog"、"alertlog" の下に月ごとに異なるフォルダー (例 :201601) に分かれて CSV 形式で保存されます。
 ファイル名は、「(ログ名)_(最初に記録されたログの年月日時分秒).csv」となります。
 1 つのファイルには 65535 件ログが記録されます。

システムログの読み方



アクセスログの読み方



アラート設定する

設定した条件のアクセスログが記録された場合、アラートログとしてアクセスログに記録した内容をログ拡張フォルダーへ保存し、システムログにアラート対象のアクセスが発生したことをログとして記録します。

また、HDL-H シリーズの通知設定で「システムイベント」のメール通知設定がおこなわれている場合、メールによる通知も行われます。

※通知設定については、【HDL-H シリーズ、HDL-HR シリーズ画面で見るマニュアル】をご覧ください。

システムログの記録とメール通知について

アラート対象のアクセスが発生した場合、アラート条件ごとに以下のいずれかの場合に、1 件システムログが記録とメール送信がされます。

- ・ 1 分間アラート対象のアクセスが発生しなかった場合
- ・ アラート対象のアクセスが 1024 件発生した場合

ご注意

- アラート対象のアクセスが大量に検出された場合、大量にシステムログが記録され、メールが送信される可能性があります。通常のアクセスがアラート対象とならないように十分にご注意ください。

- 1 制限キーの機能を利用している場合は、HDL-H シリーズ前面の USB ポート 1 に制限キーをつなぐ

2



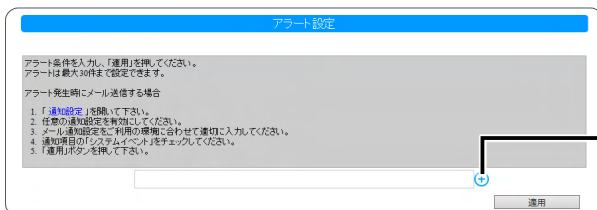
ログ拡張



アラート設定

[ログ拡張] → [アラート設定] をクリック

3



⊕ をクリック

4

① 設定情報を入力

※設定内容は以下の [設定内容一覧] をご確認ください。

② [適用] をクリック


設定内容一覧

名前 (必須)	任意のアラート名を入力します。
時間範囲 (必須)	対象の曜日と時刻範囲を指定します。 時刻範囲の右側で 00:00 が入力された場合 24:00 として扱われます。 時刻範囲を指定しない場合は 00:00-00:00 が指定されたものとして扱われます。 [以外] にチェックをつけると、設定した曜日・時間以外が対象になります。
ユーザー名 (必須)	対象のユーザー名を設定します。 検索エリアに文字列を入力すると入力した文字列を含むユーザー一覧が表示されます。 [その他] にチェックを付けた場合、HDL-H シリーズ上に作成したユーザー以外が対象になります。 [以外] にチェックをつけると、設定したユーザー以外が対象となります。
ホスト名	対象のホスト名を設定します。 [以外] にチェックをつけると、設定したホスト以外が対象となります。
IP アドレス	対象の IP アドレスを設定します。 [以外] にチェックをつけると、設定した IP アドレス以外が対象となります。
操作 (必須)	対象となる操作を選択します。
結果	対象となる結果を選択します。
共有フォルダー名	対象となる共有フォルダー名を選択します。 [以外] にチェックをつけると、その共有フォルダー以外が対象となります。
パス	対象となるパスを選択します。

※ [ホスト名]、[IP アドレス]、[パス] に入力された半角の大文字・小文字は区別されません。

[ホスト名]、[IP アドレス]、[パス] に、* (アスタリスク) を含めた場合、この * 部分は任意の文字列にマッチするものとして扱われます。



以上で、設定は完了です。

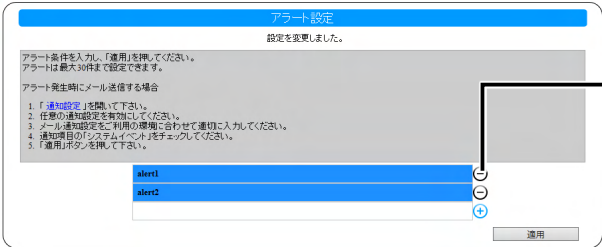
他の条件を設定する場合は、 アイコンをクリックして追加します。

アラート設定は最大 30 件まで設定できます。

アラート条件を削除する場合

- 1 制限キーの機能を利用している場合は、
HDL-H シリーズ前面の USB ポート 1 に制限キーをつなぐ

- 2  →  [ログ拡張] → [アラート設定] をクリック
ログ拡張 アラート設定

- 3  削除するアラート条件の ⊖ を
クリック
削除するアラートが黒くなります。

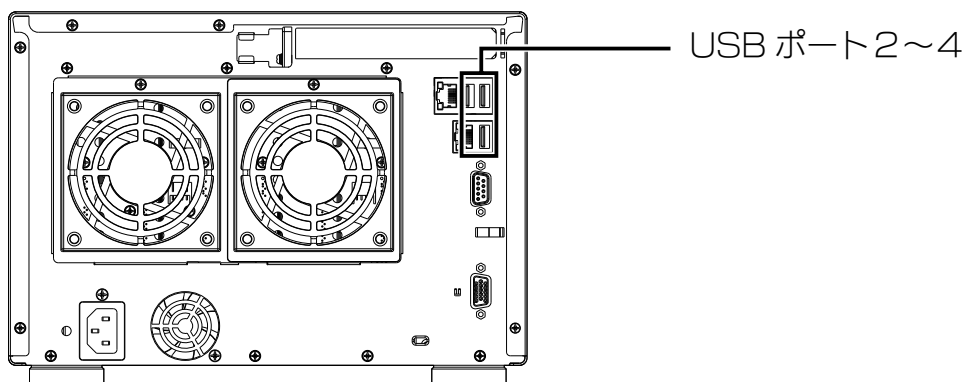
- 4  [適用] をクリック

以上で、削除されました。

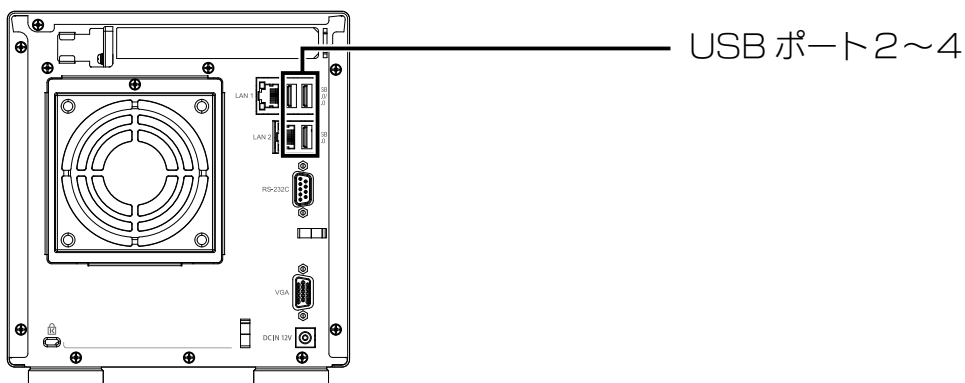
制限キーを追加登録する

- 1 [設定変更に制限キーを要求する]が有効な場合、登録した制限キーを、HDL-Hシリーズ背面のUSBポート2～4につなぐ

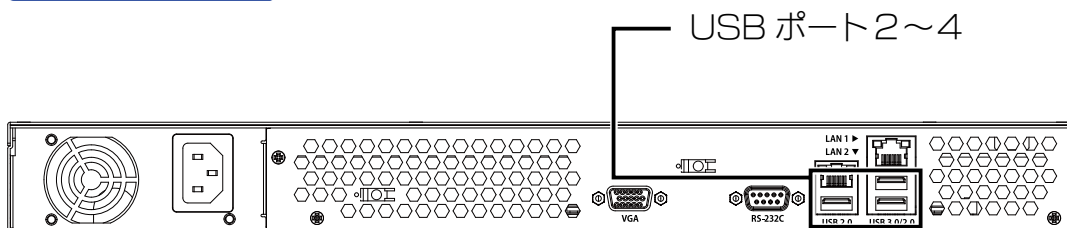
HDL6-H (HDL4-HEX) 背面



HDL2-H 背面



HDL4-HR 背面



- 2 追加登録するUSBメモリーを、HDL-Hシリーズ前面のUSBポート1につなぐ

3



ログ拡張



制限キー管理

[ログ拡張] → [制限キー管理] を
クリック

4

制限キー管理

登録の手順

1. 「設定変更」に制限キーを要求する「が有効の場合は、既に制限キーとして登録されているUSBメモリをUSBポート1以外に接続してください。
2. 制限キーとして登録するUSBメモリをUSBポート2に接続してください。
3. 「登録」ボタンを押して下さい。

登録解除の手順

1. 「設定変更」に制限キーを要求する「が有効の場合は、既に制限キーとして登録されているUSBメモリを接続してください。
2. 登録を解除する制限キーを接続してください。
3. 「解除」ボタンを押して下さい。

Manufacturer	接続ポート
<input type="checkbox"/> I/O DATA	2

解除 登録

[登録] をクリック

以上で、制限キーが登録されました。

制限キー管理

制限キーを登録しました。

登録の手順

1. 「設定変更」に制限キーを要求する「が有効の場合は、既に制限キーとして登録されているUSBメモリをUSBポート1以外に接続してください。
2. 制限キーとして登録するUSBメモリをUSBポート2に接続してください。
3. 「登録」ボタンを押して下さい。

登録解除の手順

1. 「設定変更」に制限キーを要求する「が有効の場合は、既に制限キーとして登録されているUSBメモリを接続してください。
2. 登録を解除する制限キーを接続してください。
3. 「解除」ボタンを押して下さい。

Manufacturer	接続ポート
<input type="checkbox"/> I/O DATA	2
<input type="checkbox"/> I/O DATA	1

解除 登録

制限キーを解除する

- 1 [設定変更に制限キーを要求する]が有効な場合、登録した制限キーのいずれかを、HDL-Hシリーズ前面のUSBポート1につなぐ

2



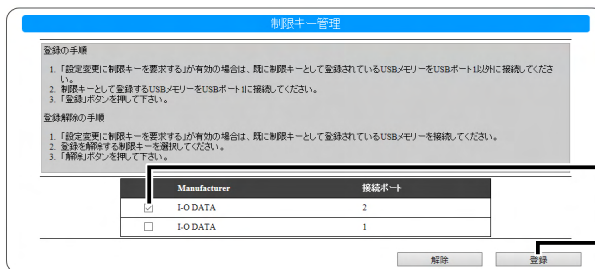
ログ拡張



制限キー管理

[ログ拡張] → [制限キー管理] をクリック

3



①解除する制限キーにチェック

② [解除] をクリック

以上で、制限キーが解除されました。

ログ・お知らせ一覧

※レベルが [情報] のメッセージコードは、システムログには表示されません。

※ SNMP トラップで送信されるメッセージコードには "-" は含まれません。

カテゴリ	メッセージコード	レベル	メッセージ	液晶表示	説明	お知らせ	メール通知	NarSuS通知	SNMPトラップ
ログ拡張	7100-0001	情報	設定を変更しました。	-	設定変更が正常に完了した。	-	-	-	-
	7100-0002	情報	制限キーを登録しました。	-	制限キーの登録が正常に完了した。	-	-	-	-
	7100-0003	情報	制限キーの登録を解除しました。	-	制限キーの登録解除が正常に完了した。	-	-	-	-
	7100-0010	情報	アラート条件 アラート条件名 : アラートメールを送信しました。 (メールアドレス)	-	アラートメールの送信が正常に完了した。	-	-	-	-
	7103-0000	警告	システムが処理中です。しばらく待ってからもう一度操作をやり直してください。	-	他の処理中のため、指定された処理を行えなかった。	-	-	-	-
	7104-0001	警告	設定変更に失敗しました。	-	設定変更に失敗した。	-	-	-	-
	7104-0002	警告	制限キーの登録に失敗しました。	-	制限キーの登録に失敗した。	-	-	-	-
	7104-0003	警告	制限キーの登録解除に失敗しました。	-	制限キーの登録解除に失敗した。	-	-	-	-
	7105-0001	警告	制限キーが接続されていないため設定を変更できません。	-	制限キーが接続されていないため設定変更に失敗した。	-	-	-	-
	7105-0002	警告	制限キーが接続されていないため制限キーの登録ができません。	-	登録済の制限キーが接続されていないため制限キーの登録に失敗した。	-	-	-	-
	7105-0003	警告	制限キーが接続されていないため制限キーの登録を解除できません。	-	登録済の制限キーが接続されていないため制限キーの登録解除に失敗した。	-	-	-	-
	7109-0010	警告	アラート条件 アラート条件名 : アラートメールの送信に失敗しました。 (メールアドレス)	メール失敗	アラートメールの送信に失敗した。	○	-	-	○
	7110-0000	警告	登録する USB メモリーが接続されていません。	-	登録する USB メモリーが接続されていないため登録に失敗した。	-	-	-	-
	7110-0001	警告	接続された USB メモリーは制限キーとして既に登録されています。	-	既に制限キーとして登録されている USB メモリーが接続されている。	-	-	-	-
	7110-0002	警告	接続された USB メモリーは制限キーとして利用できません。	-	制限キーとして利用できない USB メモリーが接続されている。	-	-	-	-
	7110-0010	警告	アラート条件 アラート条件名 : アクセスを 件数 件検出しました。	アラート検出	アラート条件に該当するアクセスを検出した。	○	-	○	○